第9回教育課程編成委員会

開催日時：平成29年8月25日（金）14:00～15:00

場 所：下関福祉専門学校図書室

出席者：山本 美佐枝（社会福祉法人下関市社会福祉協議会 在宅福祉課長）

河田 洋治（社会福祉法人 菊水会 次長）

関谷 豊（下関福祉専門学校 校長）

松寄 芳江（下関福祉専門学校 教務課長）

藤岡 恵子（下関福祉専門学校 専任教員）

以上5名

司 会：松寄芳江

書 記：藤岡恵子

議事1. 下関福祉専門学校校長挨拶

- ・入学者の減少傾向の現状を説明する。
- ・平成30年卒業生から、現役高校生は、訓練生として対象としない旨を山口県から説明を受けたことを報告する。

議事2. 委員の出席状況の確認

出席予定者8名のうち5名出席であることの確認をする。

議事3. 卒業生及び在学者状況報告

- ・司会の松寄より別紙項目別卒業生及び在学者状況を発表する。
- ・質疑応答を受ける
 - Q. 就職先は、正規雇用かどうか
 - A. 本校卒業生は正規雇用である。実務者は、家庭の事情等があり、パートが多い。
 - Q. 1年生の平均年齢はどうか。
 - A. 人数はかなり減少しているが、例年に比べ平均年齢は若くなっている。最高年齢が47歳で、現役高校生からの入学者も16名中6名いる。
 - Q. 定職率は、どうか
 - A. 養成校卒業生は、辞めても職場の人間関係が原因のためか、他の事業所へすぐに就職をする。しかし、萩地区で高校生から福祉の現場にきた者は、半年で100%辞め全く違う職種にいったと聞いている。

議事4. 今年度の教育目標・課題

別紙介護福祉学科教育計画に基づき松寄が説明する。

議事5. 「福祉と文化」の授業について

昨年度実績を提示し松寄が説明する。続いて今年度の推奨授業などを伺う。

- ・口腔ケアは、認知症との関係性もあり、よいのではないか。
- ・化粧は、施設生活の中で、特別のときでないといけない。要介護度3以上の入所条件のある特養では難しい。せっかく勉強したのに学んだことが生かされないと辞める理由にする職員がいる。また、利用者が自力ではなく、職員が実際は行っており、負担となっている。現場の中で人材不足のため、余裕がないのも事実である。化粧だけでなく「散歩」もできないのが現状である。
- ・いろいろなことに対して、報告をしなければならないというリスクを、恐れている。
- ・喜びを感じてもらえると思っても、そうではないことが多いのも現状である。

議事6. 各委員からの意見要望

- ・実習を受け入れるが、基本的な国語の指導をしなければならない。
- ・日本語の文章としての構成ができておらず記録ができない。
- ・コミュニケーションを話すことだけがすべてと思っており、「コミュニケーションをとった」と記録にあるが、それは「話をした」にしかすぎないことが多い。コミュニケーションということを深く理解してほしい。
- ・人の記録を読むことで、文章力がつく。
- ・希望があれば、施設で介護記録を読むことはできる。

(回答)

- ・課題提出等で文章の指導は行っているが、個人差が大きい。文章力について、今以上に授業を行ったほうがよいのか他の教員とも協議してみる。
- ・コミュニケーションについてもかなりの時間数をかけているが、理解力について差がある。担当教員に確認してみる。

議事7. その他

(校長)

外国留学生の受入れについて校長から説明をする。また、下関市独自の特徴ある受入れを示さなければ、都会のほうに人が集まってしまう。そのため下関市に陳情の予定である。

(委員より)

施設では、上層部のほうは日本人を入れたいと思っているが、現状からは難しく、このたび留学生受入れに進んでいる。10月に現地で面接を予定しており、なんとか下関に来てほしい。EPAのように試験に落ちて帰国しなければならないことだと、せっかくの投資が無駄になる。定住する方向で考えてもらいたい。また、アイメイドの場合保証人の件が気になっている。土曜、日曜は施設でバイトをするのであるが、生活の拠点はどこに置いたほうがよいのか。

(校長)

就学時の奨学金の保証人は個人との規定がある。専門学校の中には、法人の中の一個人が保証人となっているところもある。

施設の近くで拠点をおいてもらってよい。

次回開催の日時 次回は3月に開催予定